

災害リスク情報等を 公開・流通させるための基本構成 (事務局原案)

－ システム化部会 －

平成21年11月20日(金)



1. 本資料の位置づけ

資料3 P.3の現状の課題と解決の方向性より

現状の課題

■ **課題** : 災害リスク情報等を同条件で組織横断的に検索することができない

■ **課題** : 災害リスク情報の定義内容(仕様)が分からないためデータを十分に活用できない

■ **課題** : 災害リスク情報の利用条件・制限・概要等を把握することができない

■ **課題** : 異なる機関の災害リスク情報等を統合的に利活用できない(ex.重畳表示・分析等)

■ **課題** : 利活用場面で求められる情報の全てが十分に整備されていない

■ **課題** : 災害リスク情報の説明に用いられている用語の意味や各機関での定義の違いがわからない

解決の方向性

解決方策 : 組織横断的に災害リスク情報及びデータ仕様を取得できるデータ流通の仕組みを整備

= システム化部会のテーマ

解決方策 : 検索や利活用に必要な情報を定義したメタデータ仕様を規格化

= データ標準化部会のテーマ

解決方策 : 統合的に利用できる標準的なデータ仕様を規格化

= データ標準化部会のテーマ

解決方策 : 既存仕様に用いられている用語の意味(機関毎の定義内容の違い等)を整理した用語辞書を整備

= データ標準化部会のテーマ

2. 基本要件

- データのみの流通では、データの取り扱い方がわからないため、当該データで取り扱うデータ項目の種類、内容、データ型などが定義された**データ仕様**¹も流通させる。
- 統一的な方法で検索できるようにデータ仕様及びデータには**メタデータ**²を付与して流通させる。
- ユーザはデータ仕様を検索時に、データ仕様内の内容を検索できるようにデータ仕様を収集して管理する。

・データ(仕様)作成機関
・データ(仕様)作成日
・データ(仕様)名称 等々

データ

SuiCd	KasCd	Jin_M0_14	Jin_F0_14
111111	12345	456	
222222	65789	789	

データ仕様を参照すると・・・

「SuiCd」は水系コード。
「Jin_M_0_14」は年齢別人口(男性)0～14歳か

データだけだと・・・

「SuiCd」は・・・水系コードかな？
「Jin_M_0_14」は何？



データ仕様

項目	内容	備考
SuiCd	水系コード	水系コード表参照
KasCd	河川コード	河川コード表参照
Jin_M0_14	年齢別人口(男性:0～14歳)	
Jin_F0_14	年齢別人口(女性:0～14歳)	

1: データ仕様とは、データで取り扱うデータ項目の種類・内容説明・データ型等の記述様式等が定義されたものを指す。本プロジェクトで規格化するデータ仕様や各機関が作成している災害リスク情報に関連するデータ仕様が対象となる。

2: メタデータとはデータそのものではなく、データを説明する情報のこと。データの作成日時や作成者、データ形式、タイトル、注釈などが考えられる。データを効率的に管理、検索するための情報となる。

3. 実現目標と実現後の将来イメージ

現状

- ・各機関のデータやデータ仕様が統一的な手法で検索する術がなく、整備状況が不明
- ・データが流通していないためデータの再利用が進まない。

目標

データの再利用を可能にするための環境を構築

：データおよびデータ仕様の検索・取得が可能な仕組みを構築 解決方法

効果

- ・データ仕様の流通によって、データ仕様の乱立を防ぐ（データの標準化の促進）
- ・データの再利用に効率的なXMLデータなどの機械可読なデータへのシフトが進む



データの公開・流通が進み、データの標準化や流通データの再利用性の高度化(ex.XML化)が進むことによって、次の段階へと進むことができる。

目標達成後の将来イメージ

（データ仕様・データのメタデータの公開・流通による利活用の普及後）

- ・公開されたデータやデータ仕様の再利用による新たなサービスの創出が可能になる。

データ変換サービスの構築

データ変換サービスを利用したデータ連携による新たなサービスの創出

4. 実現のための要件と実施事項

要件



ユーザ

データ仕様を統一的な手法で検索・取得できる

データを検索し、データの基礎情報を取得できる

実データの取得は基礎情報に含まれるデータ公開先(URL等)から取得する

- ・どこの機関が
- ・どのような記述様式の
- ・いつ作成された
- ・どこで公開している 等々

達成イメージ

データの再利用が可能な環境が整う

- ・データを利用するためのデータ仕様の取得が可能になる
- ・データの公開サイト情報を得ることによってデータの取得が可能になる

取得したデータを別のシステム等で利用するためのデータ変換を行うための材料が整う。

当面の目標を達成するための実施事項

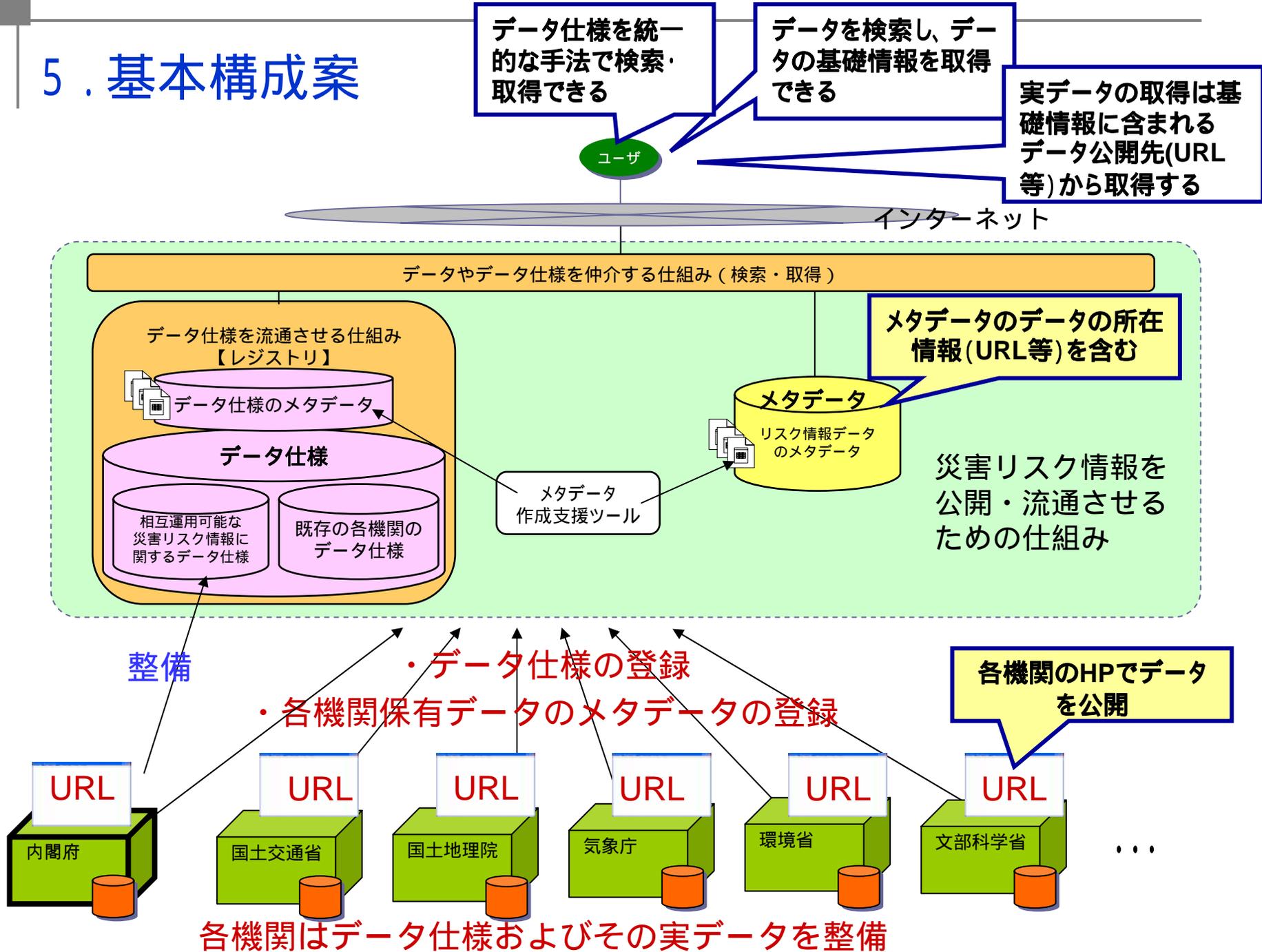
各機関が作成・保有するデータ仕様の収集

データ仕様とデータに統一的なメタデータの付与(データ標準化部会によるメタデータ標準仕様)

データ仕様やデータを検索・取得するための仕組みの構築

収集したデータ仕様およびデータのメタデータを 用いて流通

5. 基本構成案



データ仕様を統一
的な手法で検索・
取得できる

データを検索し、デー
タの基礎情報を取得
できる

実データの取得は基
礎情報に含まれる
データ公開先(URL
等)から取得する

ユーザー

インターネット

データやデータ仕様を仲介する仕組み (検索・取得)

データ仕様を流通させる仕組み
【レジストリ】

データ仕様のメタデータ

データ仕様

相互運用可能な
災害リスク情報に
関するデータ仕様

既存の各機関の
データ仕様

メタデータ
作成支援ツール

メタデータ

リスク情報デー
タのメタデータ

メタデータのデータの所在
情報(URL等)を含む

災害リスク情報を
公開・流通させる
ための仕組み

整備

- ・データ仕様の登録
- ・各機関保有データのメタデータの登録

各機関のHPでデー
タを公開

URL
内閣府

URL
国土交通省

URL
国土地理院

URL
気象庁

URL
環境省

URL
文部科学省

...

各機関はデータ仕様およびその実データを整備



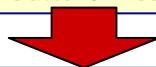
実現後の将来像

データの再利用が可能な環境が整う



将来像

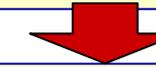
国全体の行政の行政情報の公開・流通が進み、各機関で作成されたデータを直接取得できるようになる。



必要とするデータを任意のデータ仕様に変換してデータを取得できる。

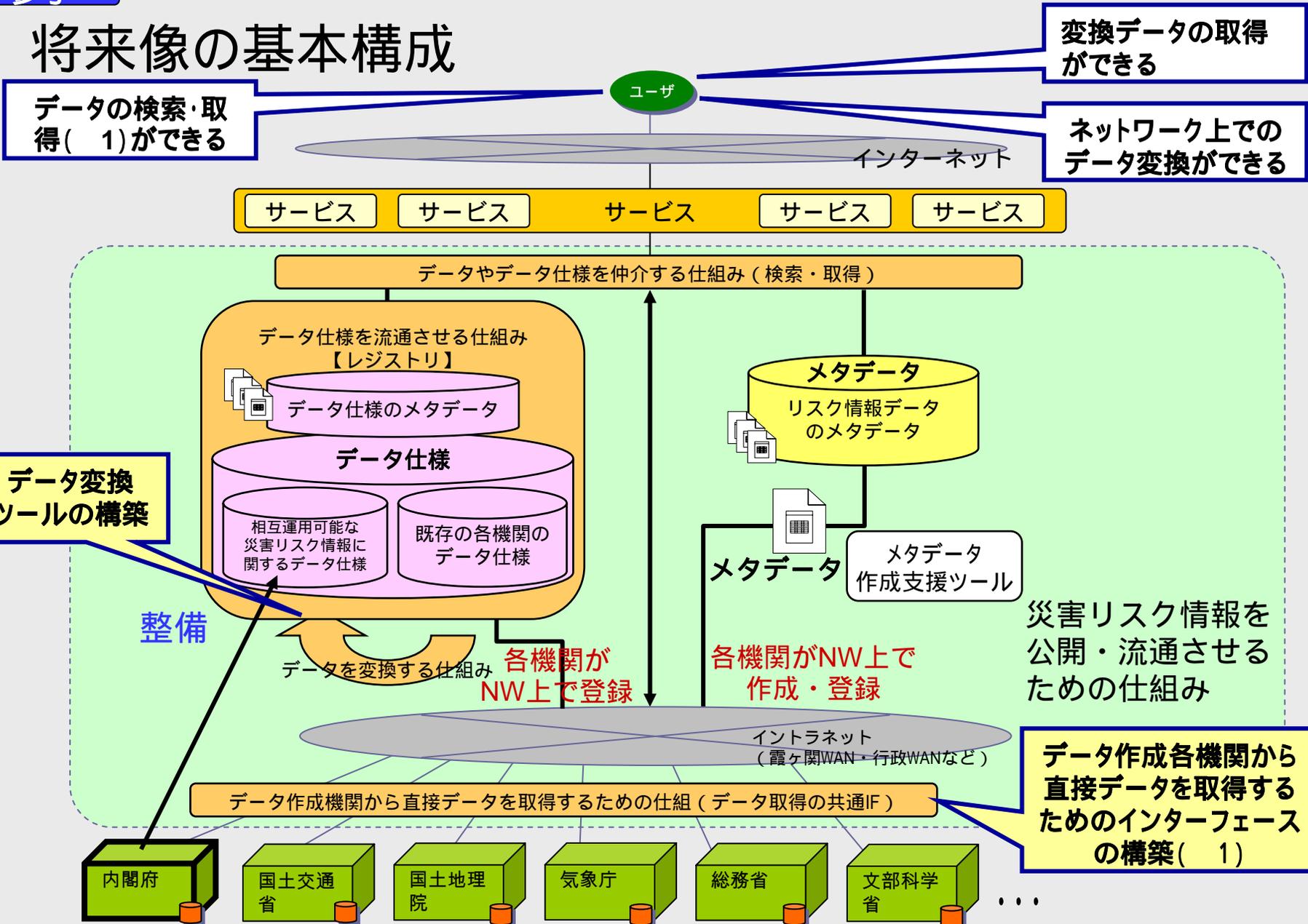


データ変換が自在になることで、様々なデータとの連携が可能になる。



データ連携が可能になることで様々なサービスの創出が可能になる

将来像の基本構成



各機関はデータ仕様およびその実データ・関連ツールを整備

1: 国全体の行政情報の公開・流通が進むことによって、各機関で作成するデータを取得するような標準的な仕組みが構築されることを想定

特にご意見をいただきたい事項

本日の部会または後日開設する情報共有サイトにて、特にご意見をいただきたい事項は以下のとおりです。

- 基本構成において、追加すべき点や工夫すべき点について
- メタデータやデータ仕様を効率的に作成・登録するための方法について
- 複数の機関のデータ仕様やデータを流通する仕組みの先進事例について
- P.7の基本構成の仕組みが実現し、データ仕様やデータが容易に取得できるようになった場合、業務・作業の効率化や新たなサービスの創出等の効果が期待される具体的な利活用場面について
- P.7の基本構成の仕組みによりデータ仕様やデータを取得する際に、搭載を要望する機能(ex.検索方法や表示方法等)とその理由について (機能要件案作成の参考として)